

佐那河内村の植物相

植物相班 (徳島県植物研究会)

小川 誠^{*1} 木下 覚^{*2} 片山 泰雄^{*3} 木村 晴夫^{*4} 木内 和美^{*5} 小松 研一^{*6}
 真鍋 邦男^{*7} 植北ちず子^{*8} 水上 敏夫^{*9}

1. はじめに

徳島県名東郡佐那河内村(図1)は徳島市の南西に位置する内陸の村である。平成12年度の国勢調査によると、佐那河内村の面積は42.3km²で、県下の50市町村の中では35番目の広さにあたる。また、人口は3,016人(2000年)で、県下では40番目に人口の多い市町村で、県下の市町村の中でも比較的小規模である。

村の中央を園瀬川が東流し、嵯峨川や音羽川などの支流が南から流れ込んでおり、平野部は少なく、大部分が山地である。村の南部は最高峰である旭ヶ丸(標高1,019m)や轆轤山(標高972m)があり、

寒冷な気候となっている。

徳島地方気象台・日本気象協会(1991)のデータに基づいて、佐那河内村の平均気温と降水量をグラフで示した(図2)。佐那河内村の年間平均気温は14.9℃で、徳島市の16.1℃に比べて低い。また、佐那河内村の年間降水量は2257mmで、徳島市の1675mmに比べて多い。

佐那河内村の植物相については、伊延(1967)が詳細な植物のリストを佐那河内村史に掲載し、特筆すべき植物として、シロバナナガバナタチツボスミレ、アワノモチツツジ、シロバナモチツツジ、シラゲカモジグサ、シロバナトサノミツバツツジ、ヤクシマウラボシ、イヨトンボ、ダイサギソウ、トベラ

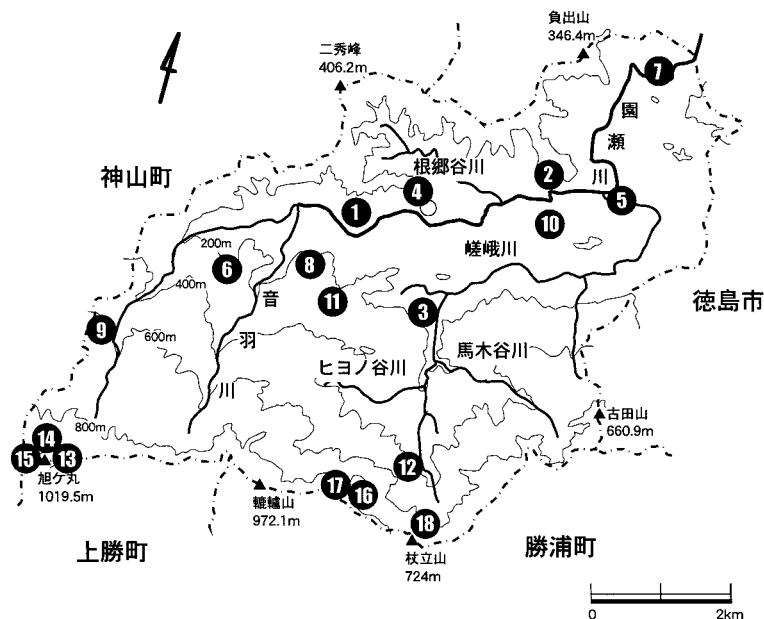


図1 佐那河内村の主な調査地点 (数字は調査地番号)

*1 徳島県立博物館 *2 大津西小学校 *3 城西高等学校神山分校 *4 徳島市北田宮3-2-8
 *5 海部郡牟岐町中村 *6 鳴門第一小学校 *7 松島小学校 *8 那賀郡相生町西納 *9 徳島市鷹匠町4-5

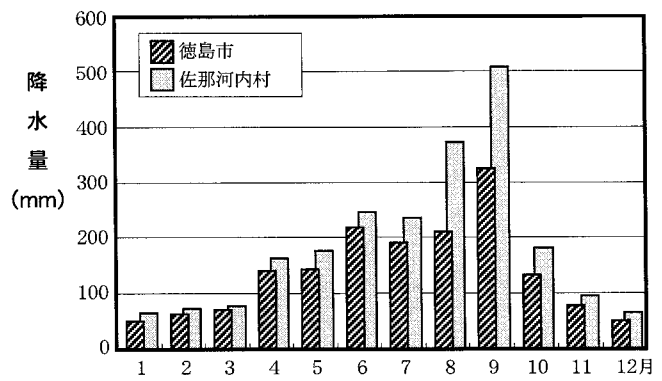
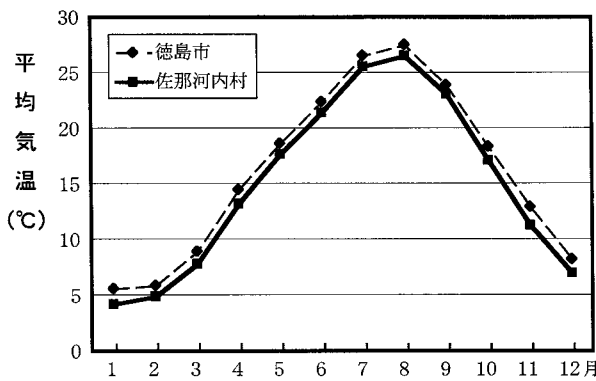


図2 佐那河内村の気温および降水量

などをあげている。近年では阿部（1990）に少し記載がある（表1）が、まとまった報告はない。佐那河内村の植物相を明らかにするために、現地調査お

表1 徳島県植物誌に記録された佐那河内産植物

（下線は徳島県版レッドデータブック掲載種）

クラマゴケ、フユノハナワラビ、ホソバコケシノブ、オオフジシダ（キシュウシダ）、トウゴクシダ、サイコクベニシダ、ウスヒメワラビ、トガリバイスワラビ、ムクゲシケシダ、フモトシケシダ、ノキシノブ、クリハラン、ヤクシマウラボシ、シラゲカモジグサ、ツルヨシ（ジシバリ）、セイタカヨシ（セイコノコシ）、チョウセンガリヤス、ヒゲシバ、ムラサキエノコロ、ビロードキビ、ムラサキススキ、イトススキ、ササガヤ、アシボソ、ヒメアブラススキ、コブナグサ（シロコブナグサ）、ウシクサ、タカネマスキ、ゴウソ、ナルコスゲ（ミズナルコ）、シバスゲ、ケスゲ、コジュズスゲ、マツバスゲ、シラコスゲ、コゴメスゲ、ナキリスゲ、アワボスゲ、ヤワラスゲ、ヌカボシソウ、ナベワリ、ナンカイギボウシ、イヨトンボ、ムギラン、ヤマナラシ（ハコヤナギ）、ネコヤナギ、ハンノキ、カナビキソウ、ナンカイアオイ、ホソバウマノズクサ、タニソバ、ミヤマハコベ、サイコクサバノオ、アケビ、カゴノキ、ジンジソウ、フイリジンジソウ、イワボタン、ミツバツチグリ、ニガイチゴ、ヤマフジ、タラヨウ、ツルマサキ、ヒロハツルマサキ、ヤブツバキ、シロバナナガバノスミレサイシン、シロバナスミレ（ホソバシロスミレ）、ホコバスミレ、ヒメスミレ、シハイスミレ、コタチツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、ナガバタチツボスミレ、ツボスミレ（ニョイスミレ）、カツラギスミレ、キツタ（フユツタ）、フキヤミツバ、シラネセンキュウ、ヤマボウシ、ホンシャクナゲ、シロバナウンゼンツツジ、アワノモチツツジ、アワノミツバツツジ、ウラゲトサノミツバツツジ、オンツツジ（アカツツジ）、ベニドウドン、タンナサワフタギ、マルバアオダモ（ホソバアオダモ）、センブリ、フデリンドウ、アサマリンドウ、ホタルカズラ、ヒカゲヒメジソ（シラゲヒメジソ）、ナギナタコウジュ、ヒキオコシ、ヤマハッカ、コクワガタ、タチイヌノフグリ、ジュズネノキ、コバノガマズミ、ハコネウツギ、ツルカノコソウ、フジバカマ、シンジュギク、ハルジョオン、ノコンギク、キツネアザミ、ハバヤマボクチ、カンサイタンポポ、オオジシバリ（ツルニガナ）、イワニガナ（ハイジシバリ）、オオバナニガナ（オオニガナ）、ハナヤクシソウ

よび標本調査、文献調査を行った。現地調査では調査期間が限られているために、全植物のリストを作成することはできなかったが、できるだけ標本を作成し、徳島県立博物館に収めた。また、巨木については胸高の周囲を記録した。

2. 地域別の植物相

地域別に出現した植物をリストアップした。樹林に階層構造がみられる場合には、高木層、亜高木層、低木層、草本層にわけて記録した。なお、和名の後の括弧は胸高の周囲（単位はm）を示す。

1) 社寺林の植物

佐那河内村の社寺林は主にシイ属やアラカシなどの照葉樹を優占種とする照葉樹林である。この林は、自然の状態をよく残している自然林に近い樹林と考えられるが、植林や伐採により面積が減っている。

(1) 井開、朝宮神社「調査地1」

高木層：アラカシ（3.37、3.05）、コジイ（2.85、1.76、1.70、1.69、1.37）、イチイガシ（3.31）、ヒノキ（3.19、2.80、1.68）、ミミズバイ、モウソウチク。
 亜高木層：コジイ、ヤマモモ（1.76）。低木層：イヌマキ、イヌビワ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、モッコク、アセビ（0.54、0.42）、オンツツジ、ミミズバイ。草本層：コシダ、ウラジロ、ベニシダ、イタドリ、サネカズラ、コバノフユイチゴ、ナツフジ、イヌツゲ、リョウブ、イズセンリョウ、カキノキ、ネズミモチ、ヒイラギ、クチナシ、サルトリイバラ、コ克蘭。

(2) 高樋、大宮神社「調査地2」

コジイ（2.71、2.28、2.05）、ナギ（3.12）、ムクロジ（1.30）。

(3) 嵯峨、天一神社 (図3) 「調査地3」

高木層：アラカシ (1.21)、イスノキ (1.50、1.42、1.4、1.13、1.02、0.78)、イチヨウ (植栽)、イヌマキ (植栽)、カゴノキ (1.40、1.33、1.20)、カヤ (3.53、0.62)、クスノキ (植栽、4.29)、スギ (植栽、5.41、4.25、3.5)、タブノキ (4.03、1.68、1.15)、タラヨウ (2.18)、ヒノキ、ムクノキ (3.67、2.62、2.17)、モチノキ (2.88、2.18、1.88、1.70、1.48、1.16)、ヤブツバキ (1.24)。亜高木層：イチヨウ、カヤ、クスノキ、サカキ、スギ、ヒノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ。低木層：ノキシノブ、ヒノキ、イヌマキ、カヤ、アラカシ、ムクノキ、エノキ、イヌビワ、イタビカズラ、カゴノキ、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、ナンテン、アケビ、ヤブツバキ、ヒサカキ、トベラ、ビワ、ナツフジ、アカメガシワ、サンショウ、ハゼ、タラヨウ、ツルウメモドキ、マサキ、ツタ、キツタ、ネズミモチ、ヒイラギ、サカキカズラ、テイカカズラ、クチナシ、ヤブムラサキ、クサギ、スイカズラ、シオデ、ヒメドコロ、シュロ。草本層：ミズヒキ、ヒカゲイノコズチ、ドクダミ、オオバウマノスズクサ、ナンカイアオイ、フユイチゴ、クサイチゴ、ナワシロイチゴ、ムラサキカタバミ、マンリョウ、ヤブコウジ、ヘクソカズラ、ヒヨドリジョウゴ、タカサゴユリ、ジャノヒゲ、サルトリイバラ、ヤマノイモ、チヂミザサ。



図3 天一神社「調査地3」

(4) 中辺、妙見神社「調査地4」

アラカシ (1.86、1.29)、イチヨウ (植栽、2.77、1.70)、カゴノキ (1.41、1.29、0.98、0.97)、ムクノキ (3.74、3.05)、ヤブツバキ (1.02、0.81、0.73)、

ヤブニッケイ (2.57)。

(5) 尾境集会所「調査地5」

高木層：クリ、クロガネモチ (1.29)、スギ、コジイ (2.15、1.82、1.55、1.39、1.37、1.30)、ムクノキ (3.33)、モウソウチク、ヤブニッケイ。亜高木層：エゴノキ、カナメモチ (0.28)、サカキ (0.57)、シキミ、シャシャンボ (0.40)、スギ、ヒノキ、ミミズバイ、ヤブツバキ、リョウブ。低木層：アセビ、イヌガシ、クチナシ (0.17)、サカキ、サンショウ、ソヨゴ、タイミンタチバナ、コジイ、ネズミモチ、ヒイラギ、ヒサカキ、ミサオノキ、ミミズバイ、モチノキ、ヤブツバキ、ヤマウルシ。草本層：ヒトツバ、ベニシダ、マメツタ、カクレミノ、サルトリイバラ、シュンラン、センリョウ、マンリョウ、テイカカズラ、ナンカイアオイ。

(6) 府能上幸神社「調査地6」

アラカシ (1.35、1.05)、エノキ (1.7)、カゴノキ (1.32)、ヒメユズリハ (0.58)、ムクノキ (2.21)。

2) 河川敷の植物

佐那河内村を流れる園瀬川やその支流は岩場や砂礫質の川原など変化に富んでいる。岩場にはキシツツジやイブキシダが生育していた。

(1) 一の瀬園瀬川河川敷「調査地7」

一の瀬では砂礫質の川原が広がっており、一部が岩場の川岸となっている。そこに出現する植物は下記のとおりである。

カタヒバ、ゼンマイ、タチシノブ、イノモトソウ、ミツデウラボシ、オニヤブソテツ、ヘラシダ、ゲジゲジシダ、イブキシダ、ヤマモモ、ノグルミ、アラカシ、コナラ、エノキ、アキニレ、イヌビワ、カナムグラ、カラムシ、コアカソ、イタドリ、オオイヌタデ、ミゾソバ、ツメクサ、ウシハコベ、ヒカゲイノコズチ、シキミ、サネカズラ、ヤブニッケイ、シロダモ、ボタンヅル、ヒサカキ、タケニグサ、タネツケバナ、アワモリショウマ、ウツギ、マルバウツギ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、ノイバラ、クサイチゴ、ユキヤナギ、ネムノキ、メドハギ、クズ、ヤマフジ、ムラサキカタバミ、ニシキソウ、アカメガシワ、コマユミ、ヤブガラシ、サンカヅル、タチツボスミレ、ニョイスミレ、キブシ、クマノミズキ、タラノキ、ミツバ、チドメグサ、リョウブ、キシツ

ツジ、ヤブコウジ、ネズミモチ、ヘクソカズラ、イヌトウバナ、アキノタムラソウ、カズザキヨモギ、ノコンギク、ホウキギク、クサヤツデ、ヒメジョオン、オオアレチノギク、セイタカアワダチソウ、オニタビラコ、オオカナダモ、シロバナショウジョウバカマ、オニユリ、ジャノヒゲ、ヤマノイモ、ヒメヒオウギズイセン、イボクサ、ツユクサ、ヤマカモジグサ、ススキ、チヂミザサ、クサヨシ、ツルヨシ、マダケ、メダケ、セキショウ。

3) 水田とその周辺および溜め池の植物

佐那河内村の水田には、アゼムシロ、アゼトウガラシ、オギノツメ、ホソバヒメミソハギなどの水田雑草が見られた。また、府能の水田では絶滅危惧種のサガミトリゲモが生育していた。さらに、村内には溜め池が多くあり、貴重な水草が生育することがわかった。

(1) 大田原「調査地8」

大田原は奥野々とも呼ばれ、畑の混じった棚田となっている。そこでは絶滅危惧種のおかオグルマが見られた。その周辺の植物は下記の通りである。

ゼンマイ、カニクサ、イノモトソウ、ネズ、コナラ、コアカツ、カナビキソウ、センニンソウ、アキカラマツ、アオツヅラフジ、ドクダミ、オオバウマノスズクサ、マルバウツギ、ヘビイチゴ、テリハノイバラ、ナワシロイチゴ、ゲンゲ、クズ、ヒメハギ、イヌツゲ、ツルウメモドキ、マユミ、ツルグミ、ニョイスミレ、キヅタ、セントウソウ、ヤマツツジ、サイコクイボタ、ホタルカズラ、ヒキオコシ、ウツボグサ、コバノタツナミ、ムラサキサギゴケ、オオバコ、ガマズミ、ツリガネニンジン、ノアザミ、リュウノウギク、ジシバリ、ハハコグサ、ニガナ、アキノノゲシ、オカオグルマ、カンサイタンポポ、ノビル、オニユリ、ジャノヒゲ、アマドコロ、サルトリイバラ、スズメノヤリ、ヤマカモジグサ、チガヤ。

(2) 古溜と新溜(図4)「調査地9」

府能から南に上っていくと林道のそばに小さな溜め池がある。地元では古溜ふるだめと呼ばれているが、人の手ははまらない状態で放置されて、フトヒルムシロが優占しており、サイコクヌカボやナガエミクリなどの貴重な植物が生育していた。池の周囲にはヘラオモダカやアキノウナギツカミなどの湿地性の植物



図4 古溜のナガエミクリ「調査地9」

も見られた。しかし、大雨による土砂の流入で池が埋まりつつあるので、土砂を取り除くなどなんらかの保護対策が必要である。

さらにこの南側には新溜しんだめと呼ばれる池があり、そこは改修されているが、県内で唯一生育が確認できるミズニラが生育していた。

(3) 滝の宮の溜め池「調査地10」

滝の宮の溜め池にはヒシやオオカナダモ、ヒルムシロなどの水草が生育していたが、ヒメカンガレイ、イトモ、ホッスモなどの貴重種も生育している。

4) 蝮塚の植物「調査地11」

蝮塚はめづかは村内で唯一の蛇紋岩地であり、狭い範囲ではあるが蛇紋岩が分布している。ここに特有な植物としてはイワガサが生育していた。

ゼンマイ、ワラビ、ノキシノブ、コモチシダ、アカマツ、スギ(植栽)、ヒノキ(植栽)、ネズ、カヤ、ヤマモモ、クリ、コジイ、アラカシ、コナラ、エノキ、アキニレ、コウゾ、イヌビワ、カラムシ、イタドリ、スイバ、オランダミミナグサ、ミミナグサ、カゴノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、ボタンヅル、センニンソウ、ウマノアシガタ、アキカラマツ、ナンテン、ゴヨウアケビ、ミツバアケビ、アオツヅラフジ、オオバウマノスズクサ、マタタビ、ヒサカキ、タケニグサ、ウツギ、ビワ、カマツカ、ヤマザクラ、テリハノイバラ、クサイチゴ、ニガイチゴ、ナガバモミジイチゴ、ナワシロイチゴ、イワガサ、ネムノキ、コマツナギ、イヌエンジュ、クズ、シロツメクサ、カラスノエンドウ、カタバミ、ヒメユズリハ、アカメガシワ、カラスザンショウ、サンショウ、イ

ヌザンショウ、センダン、ヌルデ、ヤマハゼ、ヤマウルシ、イタヤカエデ、イヌツゲ、ツルウメモドキ、エビヅル、タチツボスミレ、スミレ、ナガバタチツボスミレ、クマノミズキ、ウド、タラノキ、キヅタ、ヤブジラミ、オヤブジラミ、リョウブ、ネジキ、アセビ、ヤマツツジ、モチツツジ、オンツツジ、ヤブコウジ、カキノキ、マルバアオダモ、サイコクイボタ、ネズミモチ、ヒイラギ、テイカカズラ、ヤマムグラ、クチナシ、ヘクソカズラ、ホタルカズラ、ヤブムラサキ、クサギ、ヒキオコシ、ウツボグサ、アキノタムラソウ、ヒヨドリジョウゴ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ガマズミ、ツリガネニンジン、オトコヨモギ、カズザキヨモギ、ノコンギク、ノアザミ、オオアレチノギク、ニガナ、アキノノゲシ、ナガバコウヤボウキ、フキ、コウゾリナ、セイタカアワダチソウ、ジシバリ、カンサイタンポポ、ヤクシソウ、オニタビラコ、シライトソウ、ウバユリ、コオニユリ、ジャノヒゲ、アマドコロ、ツルボ、サルトリイバラ、ヤマノイモ、カエデドコロ、メリケンカルカヤ、トダシバ、ヤマカモジグサ、ノガリヤス、オガルカヤ、ウシノケグサ、ススキ、チヂミザサ、スズメノカタビラ、シュロ、メアオスゲ、ケスゲ、ヒカゲスゲ、エビネ、キンラン、シュンラン。

5) 徳円寺周辺の植物「調査地12」

徳円寺周辺には石灰岩の露頭があり、岩上にはヤクシマウラボシなどの絶滅危惧種が生育する。徳円寺旧参道（嵯峨谷支流）から徳円寺までの植物を列記する。

カタヒバ、スギナ、ゼンマイ、コシダ、ウラジロ、キジノオシダ、イヌシダ、オオフジシダ、タチシノブ、オオバノイノモトソウ、ミツデウラボシ、マメヅタ、ノキシノブ、クリハラン、ヒトツバ、オニヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ミゾシダ、ゲジゲジシダ、ジュウモンジシダ、イブキシダ、シシガシラ、コモチシダ、シシラン、チャセンシダ、スギ (3.19、2.40、2.20)、コウヤマキ (2.47)、イヌマキ、イヌガヤ、カヤ、ノグルミ、アカシデ、イヌシデ (1.20)、クリ、コジイ、アラカシ、シラカシ、コナラ、ムクノキ、エノキ、ケヤキ、クワクサ、イヌビワ、イタビカズラ、クワ、カラムシ、コアカソ、アカソ、ウワバミソウ、サンショウソウ、イラクサ、イタドリ、

ミズヒキ、ヒカゲイノコズチ、シキミ、サネカズラ、カゴノキ、ヤブニッケイ、カナクギノキ、イヌガシ、シロダモ、ボタンヅル、キツネノボタン、ナンテン、アケビ、ミツバアケビ、ムベ、アオツツラフジ、オオツツラフジ、ドクダミ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、オオバウマノスズクサ、サルナシ、マタタビ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、ヒメシャラ、タケニグサ、イスノキ、ヒメレンゲ、ウツギ、マルバウツギ、コガクウツギ、ノリウツギ、ゴトウヅル、ユキノシタ、イワガラミ、キンミズヒキ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、カマツカ、ヤマザクラ、ノイバラ、フユイチゴ、ニガイチゴ、ナガバモミジイチゴ、ナワシロイチゴ、オオフユイチゴ、ネムノキ、フジカンゾウ、ヌスビトハギ、コマツナギ、キハギ、ナツフジ、クズ、シロツメクサ、ヤマフジ、ゲンノショウコ、アカメガシワ、コバンノキ、シラキ、マツカゼソウ、コクサギ、ミヤマシキミ、イヌザンショウ、ニガキ、ヌルデ、ヤマウルシ、ミツデカエデ、イロハモミジ (2.02、1.32、1.22、1.19)、イヌツゲ、タラヨウ、アオハダ (0.98)、ソヨゴ、ツルマサキ、ノブドウ、ツタ、カラスノゴマ、ナワシログミ、タチツボスミレ、ナガバタチツボスミレ、シハイスミレ、キブシ、アマチャヅル、スズメウリ、カラスウリ、ウシタキソウ、ミズタマソウ、タラノキ、トチバナニンジン、シラネセンキュウ、ミツバ、リョウブ、ヤマツツジ、モチツツジ、ホンシヤクナゲ (0.32)、オンツツジ、スノキ、ヤブコウジ、イズセンリョウ、カキノキ、エゴノキ、ネズミモチ、ツルリンドウ、サカキカズラ、アリドオシ、ハシカグサ、ヘクソカズラ、アカネ、ミズタビラコ、ヤブムラサキ、クサギ、イヌトウバナ、カキドオシ、レモンエゴマ、スズコウジュ、ヒキオコシ、アキノタムラソウ、イワタバコ、ハエドクソウ、オオバコ、スイカズラ、ニワトコ、ガマズミ、オトコエシ、ツルニンジン、タニギキョウ、キッコウハグマ、カズザキヨモギ、ノコンギク、ヤブタバコ、シコクアザミ、ベニバナボロギク、ヒメジョオン、ヒヨドリバナ、ムラサキニガナ、ナガバコウヤボウキ、フキ、セイタカアワダチソウ、ハナヤクシソウ、ホウチャクソウ、シロバナショウジョウバカマ、ウバユリ、オニユリ、シオデ、チャボホトトギス、ナベワリ、ヤマノイモ、シ

ヤガ、ヤマカモジグサ、ササクサ、ススキ、チヂミザサ、クサヨシ、マダケ、ハチク、メダケ、シュロ、セキショウ、マムシグサ、ユキモチソウ、アオテンナンショウ、シュンラン。

6) 大川原の植物

大川原の旭ヶ丸周辺は、「大川原高原のツツジ群落」として、環境省（旧環境庁）の日本の重要な植物群落（特定植物群落）や植物群落レッドデータブックに掲載されている。樹林内では高木層が発達しておらず、風衝地のため、それが維持されているものと考えられる。樹林下にはチャボホトトギスやコフウロなどの草本が生育している。また、旭ヶ丸の北や西側には、高木層の発達する樹林があり、その樹林下にはフキヤミツバなどの貴重種が生育している。

(1) 旭ヶ丸遊歩道沿い植物「調査地13」

イヌシダ、ノキシノブ、クマワラビ、ゲジゲジシダ、ジュウモンジシダ、シシガシラ、カラマツ（植栽）、アカマツ、ヤマハンノキ、ヨグソミネバリ、イヌシデ、コナラ、ヤマグワ、コアカソ、イラクサ、イタドリ、ミズヒキ、タニソバ、ハルトラノオ、ヒメスイバ、アレチギシギシ、カワラナデシコ、ヒカゲイノコズチ、カナクキノキ、シロモジ、シコクブシ、ニリンソウ、オオバショウマ、ヤマシャクヤク、シギンカラマツ、ゴヨウアケビ、アケビ、アオツツラフジ、フタリシズカ、オオバウマノズクサ、サルナシ、ヒメシャラ、オトギリソウ、タケニグサ、クサアジサイ、ウツギ、マルバウツギ、コガクウツギ、ヤマアジサイ、ノリウツギ、ゴトウヅル、イワガラミ、キンミズヒキ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、カマツカ、ヤマザクラ、クサイチゴ、バライチゴ、ニガイチゴ、ナガバモミジイチゴ、ナワシロイチゴ、ワレモコウ、ナナカマド（植栽）、コゴメウツギ、メドハギ、ゲンノショウコ、コフウロ、シラキ、イヌザンショウ、ツタウルシ、ヤマウルシ、イタヤカエデ、イロハモミジ、コハウチワカエデ、イヌツゲ、ソヨゴ、ウメモドキ、ツルウメモドキ、コマユミ、マユミ、クマヤナギ、ナワシログミ、ナガバノスミレサイシン、エイザンスミレ、ナガバタチツボスミレ、ニョイスミレ、キブシ、カラスウリ、ミズタマソウ、クマノミズキ、ヤマボウシ、ハナイカダ、タ

ラノキ、トチバニンジン、ドウダンツツジ（植栽）、アセビ、ヤマツツジ、コバノミツバツツジ、オンツツジ、スノキ、エゴノキ、タンナサワフタギ、マルバアオダモ、サイコクイボタ、アサマリンドウ、ヘクソカズラ、ヤブムラサキ、カキドオシ、タカクマヒキオコシ、ウツボグサ、アキノタムラソウ、キバナアキギリ、ムラサキサギゴケ、シコクママコナ、ハエドクソウ、オオバコ、コツクバネウツギ、スイカズラ、ニワトコ、ガmazミ、ヤブウツギ、オトコエシ、ホタルブクロ、カズザキヨモギ、ノコンギク、シコクアザミ、リュウノウギク、ヒメジョオン、ヒヨドリバナ、ジシバリ、シンジュギク、ムラサキニガナ、フキ、シライトソウ、ホウチャクソウ、ウバユリ、コオニユリ、ツクバネソウ、サルトリイバラ、チャボホトトギス、シロバナエンレイソウ、ヤマノイモ、ツユクサ、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、ススキ、メダケ、ミツパテンナンショウ、アオテンナンショウ、タガネソウ。

(2) 旭ヶ丸、北斜面 標高約950m「調査地14」

高木層：イヌシデ (0.60, 0.49)、エゴノキ (0.65, 0.49)、クマノミズキ (0.80)、コナラ (0.60)、サルナシ、ツガ (1.00)、ヤマザクラ (0.86, 0.85, 0.85, 0.81, 0.64)、ヤマハンノキ (0.66)。亜高木層：ゴトウヅル、コハウチワカエデ、シラキ、フサザクラ、マユミ (0.41)、リョウブ。低木層：シロモジ、マルバウツギ、コガクウツギ、ノリウツギ、ゴトウヅル、コゴメウツギ、シラキ、イヌツゲ、ヤマボウシ、ムラサキシキブ、ニワトコ。草本：イノデ、ジュウモンジシダ、シシガシラ、イヌシデ、イラクサ、ハルトラノオ、カナクキノキ、シロモジ、シコクブシ、オオバショウマ、ヤマシャクヤク、メギ、フタリシズカ、ミヤコアオイ、ウツギ、ヤマアジサイ、ゴトウヅル、イワガラミ、ナガバモミジイチゴ、エンコウカエデ、マユミ、ノブドウ、ツタ、ナガバノスミレサイシン、エイザンスミレ、トチバニンジン、フキヤミツバ、タンナサワフタギ、サイコクイボタ、クルマムグラ、アキノタムラソウ、オカタツナミソウ、シコクアザミ、シンジュギク、コウヤボウキ、フキ、ホウチャクソウ、ウバユリ、ツクバネソウ、サルトリイバラ、シロバナエンレイソウ、ミツパテンナンショウ、アオテンナンショウ、タガネソウ。

(3) 旭ヶ丸、西斜面 標高約1000m (図5)「調査地15」

高木層：アカマツ (0.83)、イヌシデ (0.61)、エゴノキ (0.62、0.54、0.50、0.50)、カナクギノキ (0.64、0.64、0.60、0.60、0.58)、クマノミズキ (0.75)、コナラ (0.91、0.60、0.58)、ヤマザクラ (0.64)、ヤマボウシ (0.34)、リョウブ (0.70)。亜高木層：オンツツジ、コバノミツバツツジ、シロモジ、タンナサワフタギ。低木層：シロモジ、ヒメクロモジ、カマツカ、モリイバラ、ナガバモミジイチゴ、サンショウ、イヌツゲ、ハナイカダ、エゴノキ、タンナサワフタギ、ヤブムラサキ、ヤブウツギ。草本層：ゼンマイ、ワラビ、イヌシデ、イタドリ、ミズヒキ、オオバショウマ、シギンカラマツ、アケビ、ミツバアケビ、フタリシズカ、ミヤコアオイ、クサアジサイ、ダイコンソウ、ヌスビトハギ、コフウロ、イヌツゲ、ナガバノスミレサイシン、タラノキ、オンツツジ、ツルリンドウ、アキノタムラソウ、キバナアキギリ、オカタツナミソウ、オオバコ、シラヤマギク、ヤブタバコ、シコクアザミ、ヒヨドリバナ、シンジュギク、コウヤボウキ、フキ、シライトソウ、ホウチャクソウ、チゴユリ、サルトリイバラ、ヤマジノホトトギス、チヂミザサ、アオテンナンショウ、タガネソウ。



図5 旭ヶ丸「調査地15」

7) 杖立山から大川原の植物

杖立山から大川原へ至る地域には二次林が発達している。林内は明るく、道路の法面にはさまざまな植物が生育している。

(1) 道路沿いの二次林「調査地16」

高木層：アカマツ (優占)、エゴノキ、カナクギノキ。亜高木層：ヤマボウシ、サルナシ、コナラ、ヒメシャラ。低木層：ケヤマハンノキ、シキミ、シロモジ、ヒメクロモジ、コガクウツギ、イヌザンショウ、イヌツゲ、アセビ、アワノミツバツツジ、タンナサワフタギ。草本層：トウゲシバ、ゼンマイ、ハリガネワラビ、シシガシラ、カナクギノキ、ノリウツギ、サンカクヅル、ナガバノスミレサイシン、ネズミモチ、ツルリンドウ、オオカモメヅル、サルトリイバラ、ヒメホウチャクソウ。

(2) 道路沿いの法面「調査地17」

ゼンマイ、ヤワラシダ、コナラ、コアカソ、アカソ、イタドリ、イヌタデ、ボントクタデ、ヒカゲイノコズチ、メギ、フタリシズカ、アカショウマ、ウツギ、マルバウツギ、ヒメキンミズヒキ、クマイチゴ、クサイチゴ、ヤブマメ、ヌスビトハギ、クズ、ゲンノショウコ、アカメガシワ、シラキ、カラスザンショウ、ウリハダカエデ、ノブドウ、サンカクヅル、タラノキ、アケボノソウ、ヘクソカズラ、ヤブムラサキ、クルマバナ、ナギナタコウジュ、ヒキオコシ、ウツボグサ、オトコエシ、カズザキヨモギ、ホソバコンギク、ダンドボロギク、オオアレチノギク、ヒヨドリバナ、ヤマニガナ、フキ、アキノキリンソウ、サルトリイバラ、ホトトギス、チャボホトトギス、ヤマノイモ、シャガ、ツユクサ、ススキ、チヂミザサ、ナキリスゲ。

(3) 杖立山麓付近の二次林「調査地18」

徳円寺と上勝町への分岐点付近は高木や亜高木が少なく、低木を主とする二次林となっている。その組成は下記のとおりである。

ヤマヤナギ、オオバヤシャブシ、コナラ、カナクギノキ、シロモジ、ヒメクロモジ、ミツバアケビ、ミヤコアオイ、ヒサカキ、ノリウツギ、テリハノイバラ、ヤマウルシ、キブシ、アセビ、アワノミツバツツジ、ヤマツツジ、モチツツジ、エゴノキ、タンナサワフタギ、イボタノキ、アケボノソウ、コックバネウツギ、コバノガマズミ、シロヨメナ、シコクアザミ、コウヤボウキ、サルトリイバラ、ヒメドコロ、トダシバ。

3. 特記すべき植物

佐那河内村内の希少種や絶滅危惧種、帰化植物など特記すべき植物は下記のとおりである。絶滅危惧種を集めたレッドデータブック（以下RDB）のうち徳島県に関係するものは2種類あり、2000年に環境省（旧環境庁）より発刊された維管束植物のRDB（環境庁、2000）と、2001年に発刊された徳島県版のRDB（徳島県、2001）である。絶滅危惧種に当たる場合は「環境省」または「徳島県」に続いてそれぞれのカテゴリを示した。各カテゴリの意味は、「絶滅危惧Ⅰ類」は絶滅の危機に瀕している種、「絶滅危惧Ⅱ類」は絶滅の危険が増大している種、「準絶滅危惧」は存続基盤が脆弱な種である。環境省版では「絶滅危惧Ⅰ類」をさらに、「絶滅危惧ⅠA類」としてごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの、「絶滅危惧ⅠB類」としてⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いものの2つに分けている。

1) アワゴケ アワゴケ科

Callitriche japonica Engelm.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

栃木県以西の本州から琉球列島に分布する植物であるが、県内ではまれに生育している。県版RDBでは鳴門市で生育が確認されたが、徳島市・川島町・池田町では記録のみとなっている。今回、徳円寺周辺で生育を確認した。

2) ホッスモ イバラモ科

Najas graminea Del.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州から琉球に分布する水草で県内ではまれな植物である。工事や水質汚染などの原因で激減しており、川島町・鴨島町・美馬町・上板町・徳島市などの過去に見られた産地のほとんどで現在生育が確認できず、県版RDBでは板野町で生育が確認されていた。本調査で滝の宮の溜め池に生育しているのが確認された。

3) サガミトリゲモ（ヒロハトリゲモ）イバラモ科

Najas indica (Willd.) Cham.

環境省：絶滅危惧ⅠB類 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州・四国・九州・琉球に分布する水草で全国的に減っている。県内ではまれに生育するが、水辺環境の悪化に伴い激減している。県版RDBでは小松島市・海南町に記録があり、阿南市・佐那河内村・脇町で生育が確認された。佐那河内村でも水田にわずかに残っているのみであるので絶滅の危険が高い。

4) ミヤコアオイ ウマノスズクサ科

Heterotropa aspera (F. Maek.) F. Maek.

徳島県：絶滅危惧Ⅱ類

本州（近畿以西）と四国に分布するカンアオイのなかまである。県内には広く分布しており、すぐに絶滅するというものではないが、増殖力が強い植物ではないので生育地が破壊されれば減ってしまう。佐那河内村内にも標高の高いところに分布している。

5) ナンカイアオイ ウマノスズクサ科

Heterotropa nankaiensis (F. Maek) F. Maek.

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：準絶滅危惧

近畿地方と四国に分布するカンアオイのなかまである。ミヤコアオイと同様県内には広く分布しているが、増殖力は強くないので、環境悪化や採取により減少している。ミヤコアオイよりは標高の低い場所に生育している。徳島市が基準産地である。

6) オミナエシ オミナエシ科

Patrinia scabiosaefolia Fisch.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

北海道から九州に分布する多年草で、秋の七草の一つとして知られている植物である。県内には広く分布しており、かつては身近な植物として普通に見られたが、生育地である日当たりの良い草地が減ったり採取により減少している。今回の調査で佐那河内村で生育を確認できた。

7) ヒメカンガレイ カヤツリグサ科

Scirpus mucronatus L.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州から九州に分布する水生の植物で、近縁種のカンガレイに比べて全体が小さく、果実に明らかな横じわがある点などで区別できる。県版RDBでは鴨島町・阿南市に記録があるものの生育を確認できなかったが、その後鳴門市で確認された。今回の調

査で滝の宮の溜め池で生育が新たに確認された。

8) ヒメアザミ キク科

Cirsium buergeri Miq.

徳島県：絶滅危惧Ⅱ類

近畿以西の本州と四国、九州に分布する多年草。県版RDBでは徳島市や石井町、佐那河内村で生育が確認されている。県内でも各地で記録されているが、しばしば他のアザミ属と誤認されている場合がある。葉が茎を抱くのが特徴である。

9) オカオグルマ キク科

Senecio integrifolius (L.) Clairv. subsp. *fauriei* (Lév. et Van't.) Kitam.

徳島県：準絶滅危惧

本州から九州に分布する多年草で、やや湿った日当たりの良い場所に生育する。県内ではかつては広く生育していたが、生育に適した場所が減少しているので減っている。今回の調査で大田原で見られた。

10) ユキワリイチゲ (ルリイチゲ) キンポウゲ科
Anemone keiskeana Maxim.

徳島県：絶滅危惧Ⅱ類

本州の西部から九州に分布する多年草で早春に開花する。県内に広く分布しているが、生育地が失われたり、採取されたりして個体数が減っている。今回の調査で佐那河内村内でも生育が確認された。

11) ミスミソウ キンポウゲ科

Hepatica nobilis Schreber var. *japonica* Nakai

環境省：準絶滅危惧 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州中部以西と四国および九州北部に分布する多年草である。県内では神山町と佐那河内村とに生育し、分布が限定されている。阿部(1990)には、近縁種のケスハマソウが美馬町と池田町で記録されている。

12) ヤマシャクヤク ボタン科

Paeonia japonica (Makino) Miyabe et Takeda

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：準絶滅危惧

北海道～九州に分布し、ブナ林などで白い花をつける。県内に広く分布するが、採取や森林の伐採で全国的に減少している。今回の調査で村内で生育が確認された。

13) イワザクラ サクラソウ科

Primula tosaensis Yatabe

環境省：絶滅危惧ⅠB類 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州中部地方や紀伊半島、四国、九州に分布する。県内でももとの分布が少ない上に、採取されたり、植林や生育地の乾燥化などで減っている。佐那河内村でも生育が確認された。

14) ユキモチソウ サトイモ科

Arisaema sikokianum Franch. et Savat.

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：準絶滅危惧

東海地方と近畿地方、四国、九州に分布する多年草で、花が美しいために採取され全国的に減少している。県内では比較的広く分布し、個体数も多い。今回の調査で佐那河内村でも確認された。

15) イブキボウフウ セリ科

Libanotis coreana (Wolff) Kitag.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

北海道と近畿以東の本州および四国に分布する多年草。山川町・阿南市に記録があるが、今回の調査で村内の山麓でわずかに生育していることが確認された。

16) フキヤミツバ セリ科 (図6)

Sanicula tuberculata Maxim.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州から九州に分布する多年草で、県内では神山町と本村に分布が限られている。今回の調査で南部の山中で生育が確認された。



図6 フキヤミツバ

17) サイコクヌカボ タデ科

Polygonum foliosum H. Lindberg var. *nikaii* (Makino)

Hara

環境省：絶滅危惧ⅠB類 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類
近畿地方、中国地方と四国および九州に分布し、水辺に生える多年草である。元々県内での分布が少なく、本村と川島町、鷲敷町でしか見つかっていない。本村では府能の溜め池で生育が確認されたが現地は土砂が流入しており、このままでは消滅してしまうであろう。

18) カワヂシャ ゴマノハグサ科

Veronica undulata Wall.

環境省：準絶滅危惧 徳島県：準絶滅危惧

本州の中部以西から九州の河川に生育する一年草。県内では比較的広く分布しており、今回の調査では園瀬川で確認された。

19) キヨスミウツボ ハマウツボ科

Phacellanthum tubiflorus Sieb. et Zucc.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

北海道・本州・四国・九州に分布し、県内で木沢村や山川町などにはまれに生育する寄生植物。小川明日子氏により佐那河内村南部の山中で生育しているのが発見された。

20) イトモ ヒルムシロ科

Potamogeton pusillus L.

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

北海道から九州に分布する水草で、溜め池などに生育する。溜め池が埋め立てられたり水質が悪化し、全国的に減っている。県内でも川島町や鴨島町などに記録があるが、現在生育が確認できるのは鳴門市と相生町そして本村である。本村では府能と滝の宮の溜め池で確認されたが、どちらも良好な生育環境とはいえないので、なんらかの保護対策が必要である。

21) コフウロ フウロソウ科

Geranium tripartitum R. Knuth

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州から九州に分布する。本村で生育が確認されており、山川町・池田町・山城町・木沢村・木頭村・東祖谷山村・木屋平村・神山町に記録がある。

22) チャボツメレンゲ ベンケイソウ科

Meterostachys sikokianus (Makino) Nakai

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

紀伊半島と四国、九州に分布する多年草。乾いた

岩の上に生える。県内では分布が限られており、県版RDBでは、東祖谷山村・上勝町・神山町・一宇村で生育が確認された。佐那河内村に記録があるが、今回の調査では確認できなかった。

23) ナガエミクリ ミクリ科

Sparganium japonicum Rothert

環境省：準絶滅危惧 徳島県：準絶滅危惧

本州から九州に分布する多年生の水生植物。県内では比較的広く分布しているが、溜め池や水路の改修などにより減っている。古溜で生育が確認された。また、宮上の北側の溜め池でもミクリ属が生育しており、おそらくナガエミクリと思われる。

24) カタクリ ユリ科

Erythronium japonicum Decne.

徳島県：絶滅危惧Ⅱ類

北海道から九州に分布し、早春に赤紫色のきれいな花を着ける。種子ができてから花が咲くまで7年以上かかるので、繁殖力が弱いので採取や生育地の破壊で減っている。県内ではまれに生育するが、今回の調査で村内でも生育が確認された。

25) エビネ ラン科

Calanthe discolor Lindl.

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：絶滅危惧Ⅱ類

北海道の西南部から琉球に分布する多年草で、花がきれいのために、園芸用に採取され、全国的に減少している。県内の分布は広く、今回の調査で村内で生育が確認された。

26) キンラン ラン科

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：絶滅危惧Ⅱ類

本州から九州に分布する多年草で、森林伐採による生育地の破壊や園芸用の採取により全国的に減っている。県内では比較的広く分布し、村内で生育が確認された。

27) ウスキムヨウラン ラン科

Lecanorchis kiusiana Tuyama

環境省：準絶滅危惧 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

四国・九州に分布する腐生植物。県内では牟岐町・日和佐町・宍喰町などで生育を確認されている。尾境の神社に生育しており、澤 完氏によりウスキムヨウランと同定された。同氏によると、そこ

にはムヨウランと思われるものも生育している。

28) フモトシケシダ イワデンダ科

Debaria pseudoconilii (Seriz.) Seriz.

徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

本州の宮城県以南から九州に分布する常緑性のシダ。昨年の調査で、相生町で生育が確認された（木下ら、2001）。阿部（1990）では伊延敏行氏の記録として佐那河内村が掲載されている。博物館の収蔵標本には佐那河内産のものではなく、今回の調査では確認できなかった。

29) ヤクシマウラボシ ウラボシ科

Crypsinus yakuinsularis (Masam.) Tagawa

環境省：絶滅危惧ⅠB類 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

紀伊半島と四国および屋久島に分布する多年生のシダである。県内では上勝町や上那賀町の限られた地域にしか分布していない。村内では古くから分布が知られていたが、生育地の環境悪化のため個体数が激減して、絶滅寸前である。

30) ミズニラ ミズニラ科

Isoetes japonica A.Br.

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 徳島県：絶滅危惧Ⅰ類

山沿いの水のきれいな溜め池などに生育する多年生のシダである。池沼の改修や水質汚染によって全国的に激減しており、県内の上板町や石井町などの産地では現在見られなくなっている。村内の溜め池で確認されたが、数個体しか残っておらず、絶滅寸前である。

31) イワヨモギ キク科

Artemisia gmelini Weber ex Stechm.

環境庁版RDBでは絶滅危惧Ⅱ類となっているものであり、国内では北海道のみに分布するものである。中田ら（1995）により道路の法面に吹き付けるヨモギの種子に混じって外国産のものが入ってきているのが明らかとなった。県内でも、剣山スーパー林道や井川町、徳島市などで法面でイワヨモギが見られるようになった（木下ら、1998ほか）。佐那河内村でも府能の林道の法面で確認されており、ここも外国産の種子に混じって入ってきたものと思われる。

32) ユキヤナギ バラ科

Spiraea thunbergii Sieb. ex Blume

尾境や一ノ瀬の園瀬川の岩場にキシツツジなどの

溪流沿い植物に混じって生育していた。日本のものは植栽されたものが野生化したものと言われており（佐竹ら、1989）、県内では貞光川などでも見られる。

33) その他

佐那河内村内ではコバイモ属の一種が見つかり、新分類群とすべきか検討中である。

徳島県のRDBでは絶滅危惧Ⅰ類となっているオオナンバンギセル（ハマウツボ科）が佐那河内村に近い旭ヶ丸の上勝町側の稜線に生育しているのが確認された。調査を重ねれば佐那河内村にも出てくる可能性がある。

伊延（1967）のリストには、ヤナギスブタやミズオオバコ、アギナシ、フクジュソウなどの絶滅危惧種が数多く含まれているが、残念ながら県立博物館に所蔵されている標本の中には含まれておらず確認できなかった。

先にあげた以外に県立博物館に所蔵されている佐那河内産の絶滅危惧種の標本は下記のとおりで、それらについては今回の調査では確認できなかった。モリアザミ（キク科、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、クシバタンポポ（キク科、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、フジバカマ（キク科、環境省：絶滅危惧Ⅱ類、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）。スズサイコ（ガガイモ科、環境省：絶滅危惧Ⅱ類、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、マキエハギ（マメ科、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、ヤマハコベ（ナデシコ科、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、ムギラン（ラン科、環境省：絶滅危惧Ⅱ類、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、ダイサギソウ（ラン科、環境省：絶滅危惧ⅠB類、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、イヨトンボ（ラン科、環境省：絶滅危惧ⅠA類、徳島県：絶滅）、ムカゴトンボ（ラン科、環境省：絶滅危惧ⅠA類、徳島県：絶滅）、ナンカイギボウシ（ユリ科、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、アワボスゲ（カヤツリグサ科、徳島県：絶滅危惧Ⅱ類）、タカネマスクサ（カヤツリグサ科、徳島県：情報不足）、ピロードキビ（イネ科、徳島県：絶滅危惧Ⅰ類）、ヒゲシバ（イネ科、徳島県：情報不足）。特にダイサギソウやイヨトンボのなかまなど日当たりのよい湿地に生育する植物が確認できておらず、さらなる調査が必要である。

4. 巨樹

調査期間が短いために全ての巨樹は網羅できていないが、以下に調査した巨樹を掲載する。

アラカシ：3.37、3.05（井開、朝宮神社）。イスノキ：1.50、1.42（嵯峨、天一神社）。イチイガシ：3.31（井開、朝宮神社）。イチヨウ：3.23（中畑、長願寺）。イロハモミジ：2.20（中畑、長願寺）。エノキ：1.7（府能上、幸神社）。カイヅカイブキ：2.37、2.13（仁井田、民家）。カゴノキ：1.41（中辺、妙見神社）、1.40（嵯峨、天一神社）。カヤ：3.53（嵯峨、天一神社）。クスノキ：4.29（嵯峨、天一神社）。クロガネモチ：1.29（尾境）。ケヤキ：3.13（西府能）。スギ：5.41、4.25、3.50（嵯峨、天一神社）。コジイ：2.85（井開、朝宮神社）、2.71（高樋、大宮神社）。タラヨウ：2.18（嵯峨、天一神社）。ナギ：3.12（高樋、大宮神社）。ヒノキ：3.19、2.80（井開、朝宮神社）。ムクノキ：4.22（府能、若宮神社）、3.74、3.05（中辺、妙見神社）、3.67（嵯峨、天一神社）、3.33（尾境）。モチノキ：2.88、2.18（嵯峨、天一神社）。ヤブツバキ：1.24（嵯峨、天一神社）、0.98・0.94・0.80（中津、枝分かれしているために地上1.30mで測定）。ヤブニッケイ：根回り2.57、（中辺、妙見神社。1.05、0.79、0.69、0.54）。ヤマモモ：根回り3.42（仁井田。株立ちで各幹は2.48、1.92、1.42、0.93）、1.29・1.27・1.25（根郷口、枝分かれしているために地上1.35mで測定）。

5. おわりに

今回の調査では佐那河内村には貴重な水生植物が生育していることが明らかになった。それらの植物は溜め池や水田に生育し、稲作と密接な関係にある。また、日当たりの良い湿地性の植物が確認できておらず、そうした環境が減っていることがうかがえる。村内でも稲作からイチゴなどのハウス栽培に切り替えた農家が多く、休耕田なども各地で見られ、水田をとりまく環境に生育していた植物がますます生育

しにくくなっている。佐那河内に残された貴重な自然を守っていくためには、そうした農業などの生業の変化の影響をどううまく回避していくかが課題となっている。

調査を行うにあたり、和田賢次氏からは数多くの資料をいただいた。田淵武樹氏や中村喜代治氏、小川明日子氏には村内の植物分布の貴重な情報をいただいた。また、熊本大学の高宮正之氏にはミズニラを同定していただいた。澤 完氏にはムヨウラン属の同定と分布情報をいただいた。ここに記して感謝するとともに、厚くお礼を申し上げる。

文 献

- 阿部近一（1990）徳島県植物誌。教育出版センター。
 伊延敏行（1967）植物。pp.23-39。佐那河内村史編集委員会編、佐那河内村史。
 環境庁編（1979）日本の重要な植物群落（四国版）。
 環境庁編（2000）改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－8 植物Ⅰ（維管束植物）。自然環境研究センター。
 木下 覺・小川 誠・木村晴夫・赤澤時之・岡田憲昭・木内和美・小松研一・片山泰雄・真鍋邦男（1998）徳島県三好郡井川町の植物相。阿波学会紀要第44号，総合学術調査報告井川町。pp.29-47。阿波学会・徳島県立図書館。
 木下 覺・赤澤時之・植北ちず子・小川 誠・片山泰雄・木村晴夫・木内和美・田淵武樹・真鍋邦男・水上敏夫（2001）相生町の植物相。阿波学会紀要第47号，総合学術調査報告相生町。pp.47-64。阿波学会・徳島県立図書館。
 牧野富太郎（1985）牧野新日本植物図鑑。北隆館。
 長田武正（1976）原色日本帰化植物図鑑。保育社。
 長田武正（1993）増補日本イネ科植物図鑑。平凡社。
 中田政司・関太郎・伊藤隆之・小川誠・松岸得之介・熊谷昭彦・工藤信（1995）最近道路の法面に発見されるキクタニギクとイワギクについて。植物地理・分類研究、43（1-2）：124-126。
 佐竹義輔・大井次三郎ほか編（1981～1982）日本の野生植物 草本（1～3）。平凡社。
 佐竹義輔・原寛ほか編（1989）日本の野生植物 木本（1，2）。平凡社。
 徳島地方气象台・日本気象協会編 1991 徳島百年の気象。徳島出版株式会社。
 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会編（2001）徳島県の絶滅のおそれのある野生生物－徳島県版レッドデータブック－。徳島県。
 我が国における保護上重要な植物種および植物群落に関する研究委員会種分科会編（1996）植物群落レッドデータ・ブック。財団法人自然保護協会・財団世界自然保護基金日本委員会。